

支保工を起因物（小）とする死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	業種 (小)	事故の型	労働者規模
2017	1	15～16	浄水管線NO.1送電線鉄塔基礎掘削作業現場において、重機による掘削作業（下段支保工設置部）が終了し、土作業員による整地を開始したが異音と共に土止め矢板が傾きはじめ、支保工を繋ぐボルトが抜けて連鎖的に土止め矢板が倒れてきたため、作業員待避を掛けるも間に合わず、被災者が土止め矢板と鉄塔基礎の間に挟まれて死亡した。	50	30199	5	1～9
2017	2	10～11	ヘルメット、軍手を着用の上、車庫内部天井の型枠解体作業中、天井と地面（高さ1.8m位）を支えているサポート（ジャッキのようなもの）を手で緩めたところ天井から単管と角材が落下し避けようと身体をよけたが、左手に落下物が当たり左手親指を骨折してしまった。	65	30209	4	—
2017	2	10～11	土留支保工材を組立中に、誤って左手の上に落とし、薬指と小指を負傷した。負傷後すぐに病院にて受診した。	53	30199	4	1～9
2017	2	15～16	当該現場において、下水道管の布設工事のため約2m地面を掘削した床面にて、管を繋ぐ作業をしていた。土留めのため側面に渡してある切梁サポートの管があったが、ちょうど頭の上にあったことを忘れ、作業直後に体を起こした際後頭部付近を強打し、首を痛め負傷したものである。	73	30199	3	1～9
2017	5	8～9	トラックで商品を配送に行き、トラックから降ろしたカゴ台車を店内に運ぶ作業中、店のスロープ（上り勾配）を、台車を押して上がって	59	30201	1	1～

			いたところ、左ふくらはぎから激痛があり、その場で動けなくなり、左腓腹筋捻挫症、左足関節を捻挫負傷する。					9
2017	6	8~9	2階のスラブ貼り作業にて、仮置きしたベニヤ板を釘で留める際に、バタ角の上のベニヤ板に上がったと同時にベニヤごと滑り、1階土間へ横向きに落下した。	63	30201	1		30 ~ 49
2017	7	14~15	事務所敷地内にある作業場において、排水柵を制作するためにコンクリートを流し入れた枠を取り外す作業をしていたところ、足を滑らせ転んだ時に手をつき左手中指及び薬指を骨折した。	18	30199	2		1 ~ 9
2017	7	11~12	旧発電機で、電気配線用ピットの型枠組立作業中、型枠内にあった延長コードを取りに行くため、高さ60cmの型枠をまたぐ際、後ろ足を固定用金具に引っ掛け体勢を崩し、型枠を固定していた鉄筋に脇腹を強打した。	59	30302	2		10 ~ 29
2017	7	10~11	工事現場にて管路掘削作業中、簡易土留の設置作業を行っていたところ、1段目と2段目の鉄板の接続作業時に連結金具がうまく連結しないためバールで調整中、左手が1段目と2段目の鉄板の間に挟まり中指、薬指を骨折した。	63	30110	7		1 ~ 9
2017	7	11~12	新築工事現場で、基礎型枠組立作業中に、基礎梁筋上に置いてあったサン木（12尺×10本）の束を下ろそうとして、建て込んだ型枠に添えていた自分の左手首に、当該サン木の束が落下して、負傷した。	56	30201	7		30 ~ 49
2017	7	13~14	被災者は、同僚と4名で、1階立上りの型枠組立を行っていた。被災者が、サポートに立てる準備をして、クレーンで吊った梁型枠が柱型枠に納まるのを待っているとき、梁側の角パイプが柱型枠に当たって、梁型枠が納まらなかったため、壁型枠をよじ登って壁型枠の上から吊った梁型枠の角パイプをハンマーで叩いて、位置調整をした。その後、バランスを崩して約3.85m下の地面に墜落した。	38	30201	1		1 ~ 9
2017	10	16~17	橋梁災害復旧工事現場にてA2橋台仮締切内（高さ0.9m）での捨石投入、敷均・水中ポンプ（2インチ）設置の作業を行い、他作業員の作業終了の声とともに仮締切内から上がった際に、鉄骨製切梁（高さ	67	30105	3		30 ~

1.7m) に頭部を強打し、そのまま仮締切内に転落、負傷したもの。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html